

神奈川県立鶴見高等学校 平成 30 年度 学校目標
「生徒、教職員がともに Challenge する学校」

1. 教育課程・学習指導

- ① 学校として育成する資質・能力を基盤に、生徒が自らの課題を発見し解決する力を育む授業実践を進めるとともに、授業時間の確保を考慮した上で H30 年度からの教育課程編成を行う。
- ② 生徒が主体的に学校行事・生徒会活動に参画することを通じて、集団としての成長を図るとともに、生徒のキャリア諸能力の形成および豊かな人間力の形成を充実・精選を図る。

<具体的な方策>

- ・教育課程研究開発校（新たな学習評価に係る研究）としての取組みを積極的に進める。
- ・学校として育成する資質・能力の伸長を図るために H30 年度からの教育課程編成を行う。
- ・生徒主体の学校行事・生徒会活動の取組みをさらに進めるとともに、充実・精選を図る。

<評価の観点>

- ・「新たな学習評価に係る研究」の成果が生徒の変化に見て取れるか。
- ・H30 年度教育課程編成が完了したか。
- ・生徒主体の学校行事の充実と精選が図れたか。

2. 生徒指導・支援

- ① キャリア諸能力の形成や人間力の形成につながる今年度の生活指導基本方針を定め、教職員の共通理解に基づく具体的な対応を組織的に進める。
- ② 部活動の活性化に向けた支援を充実させるとともに、個別生徒の支援体制の充実をさらに進める。

<具体的な方策>

- ・課題解決のための生徒指導基本方針を定め、共通理解を持って取組みを進める。
- ・部活動の活性化に向けた支援の充実および個々の生徒の課題解決のための支援体制の充実を進める。

<評価の観点>

- ・生徒指導基本方針に基づき取組みの成果が生徒の変化に見て取れるか。
- ・部活動の活性化および個々の生徒の課題解決についての成果が見て取れるか。

3. 進路指導・支援

- ① 卒業後の自分の姿や将来の自己の在り方やビジョンを持たせる取組みの充実を図るとともに、「個々の生徒の目標とする進路実現」を測る指標の確立を図る。
- ② 主体的に学ぶ意欲を喚起し、授業・定期テスト・学力テスト・模擬試験に対する意義や目標を明確に持たせる取組みを進める。

<具体的な方策>

- ・卒業生アンケート等の改善を図り、「個々の生徒の目標とする進路実現」を測る指標づくりに取り組む。
- ・総合的な学習の時間の検証に着手する。
- ・一定のスパンで（短期・中期な）目標を持って学習に取り組むことができるよう、教科・学年等多角的に働きかける。

<評価の観点>

- 個々の生徒の目標とする進路実現」を測る指標づくりに取り組み、生徒の達成感・成就感を把握することができたか。
- 総合的な学習の時間の検証に着手し、H30年度教育課程への反映が見通せたか。
- 主体的に学ぶ意欲を喚起し、自宅学習時間の改善が見られたか。

4. 地域等との協働

- ① 地域・同窓会・保護者との協働・連携の充実を図る。
- ② 学校説明会、オープンスクール、学校HPなどの充実を図る。

<具体的な方策>

- 「卒業生による特別講演会」を企画・実施し、今後の在り方を検討する。
- 地域貢献活動の取り組みの充実を図る。
- 県立高校改革に伴う本校の取り組みを中学生・保護者に積極的に広報する。

<評価の観点>

- 「卒業生による特別講演会」を企画・実施し、今後の在り方を見通せたか。
- 地域貢献活動の取り組みの充実を通じて生徒の成長が見て取れたか。
- H29年度入学者選抜における志願者が確保できたか。

5. 学校管理・学校運営

- ① 県立高校改革基本計画および実施計画に基づき教育活動の改革推進を図るとともに、業務改善・不祥事防止の取り組みを進める。
- ② 耐震補強・老朽化対策工事向けて、準備を進める。

<具体的な方策>

- 本校ミッション達成に向け、生徒と向き合う時間を確保するため積極的に業務改善に取り組み、課題の重点化を図る。
- 円滑な情報共有に努めるとともに、事故不祥事ゼロを実現する。
- 耐震補強・老朽化対策工事向けて、教育環境の改善を図る。

<評価の観点>

- 業務の精選・課題の重点化が進み、学校目標の達成が進んだか。
- 円滑な情報共有が進み、事故不祥事ゼロが達成できたか。
- 教育環境の改善が進んだか。